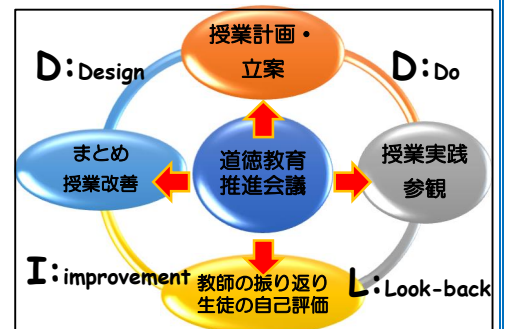


県内学校ミニ・ニュース (東金市立東中学校)

本校では、令和元年度に教科化された「特別の教科 道徳」の授業実践を学校組織全体として取り組んでいます。教科化される前年度から準備を始め、令和元年度に学校の核となる「**道徳教育推進会議**」を立ち上げ、継続して研究しています。生徒の心を耕す道徳を、「どうtalk?」「どう解く?」「どう説く?」「どう研く?」として、授業を工夫しながら進めています。「**道徳教育推進会議**」は「生徒の心を潤す授業づくり」のためにあります。そのためにも、それぞれの先生方の授業改善を図りながら少しでもその目的を達成するように努めています。こちらでは、本校の道徳教育の核となる「**道徳教育推進会議**」を中心に実践事例の一端についてご紹介します。

1. 空きコマを活用した「道徳教育推進会議」

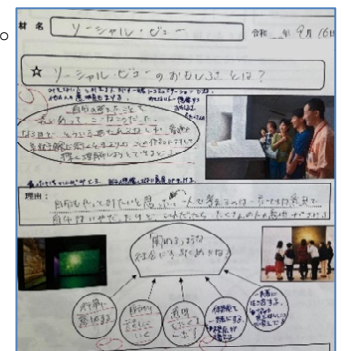
「特別の教科 道徳」の授業実践には、授業者の準備が必須です。しかし、教員経験の少ない先生方が増えていること、更に昨今の教員の多忙化を考えると、「特別の教科 道徳」の授業準備や教材研究に個人でどれくらいの時間が割けるのでしょうか? 生徒のためにも先生方のためにも「**道徳教育推進会議**」を空きコマを活用して行い、学校全体で足並みを揃えて進めています。この会議では授業立案、授業実践、生徒及び授業者と助言者の振り返り、改善ポイントを話し合います。話し合いの土台になるものは「教師の振り返り」です。生徒は毎時間の授業を振り返りますが、教師も授業実践を振り返ることにより、自身の改善点について考えることができます。



東中学校道徳教育推進のマネジメントループ

2. 校長・教頭・教務主任も参加する「道徳教育推進会議」

道徳教育を推進する中で大切なことは、学校教育目標を意識しながら生徒のよさを最大限に引き出し、他者との交流の中でよりよく生きていけるような基盤を整えることでもあります。本校では、「組織メンター」を意識し、校長、教頭、教務主任が「道徳教育推進会議」に参加します。校長は第3学年、教頭は第2学年、教務主任は第1学年の授業を参観し、会議にて、それぞれの授業者の振り返りを確認しながら授業改善に向けてのポイントを話します。正解が一つではない「特別の教科 道徳」の授業を学校全体で模索しながら考え続け、経験年数の短い先生方に助言をすることで授業者は更に意欲を高め、校長、教頭、教務主任は先生方の成長を見守ることができます。



思考ツール活用も全校で共有

3. 学校全体を道徳教育worldに

深く考えた授業から生まれる言葉には力があります。自分が印象に残った授業、そしてその授業から学んだことやこれからの自分について記したものを「道徳科の全校掲示」として、各学年の廊下で紹介します。このことにより、自分の学級以外からの学びも実現します。生徒自身も保護者も学校も、生徒の心の動きを見ることができます。

学校の組織全体で取り組む道徳教育は東中学校の教育の柱となりました。これからも、生徒と共に考え、学び、教職員が協働しながら道徳教育を推進します。

